

より愛されるテレビをめざして

ケーブルテレビ生放送の舞台裏をご紹介します

加東ケーブルビジョン（KCV）では、より充実した放送内容で市民のみなさまに「まちの情報」をお伝えできるように、さまざまな取り組みを行っています。

そのひとつとして、今年の加東市夏まつりにおいて、初めて生放送を行いました。十月四日には、上鴨川住吉神社で行われた重要無形民俗文化財の神事舞も生放送し、ふるさとの伝統の素晴らしさを多くの方々にご覧いただきました。

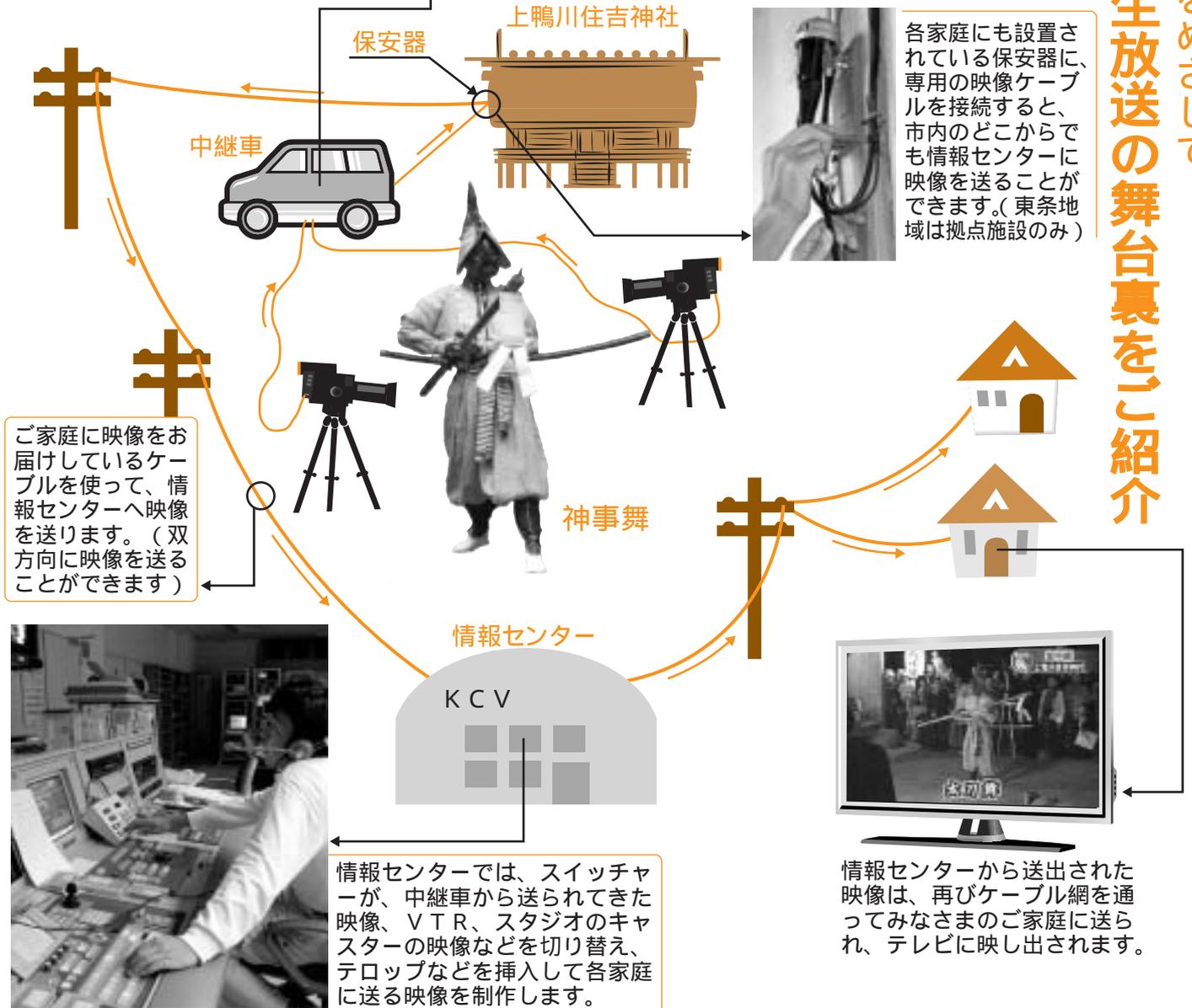
では、この生放送、いったいどのように行っているのか。みなさまにケーブルテレビをより身近に感じていただけるように、その舞台裏を紹介させていただきます。



中継車の中で、スイッチャーが、どのカメラの映像を情報センターに送るかを選びます。



各家庭にも設置されている保安器に、専用の映像ケーブルを接続すると、市内のどこからでも情報センターに映像を送ることができます。（東条地域は拠点施設のみ）



ご家庭に映像をお届けしているケーブルを使って、情報センターへ映像を送ります。（双方向に映像を送ることができます）



情報センターでは、スイッチャーが、中継車から送られてきた映像、VTR、スタジオのキャスターの映像などを切り替え、テロップなどを挿入して各家庭に送る映像を制作します。



情報センターから送出された映像は、再びケーブル網を通してみなさまのご家庭に送られ、テレビに映し出されます。

ケーブルテレビの生中継の特徴

生放送は、すべてケーブル（有線）を使って映像をリレーしていきます。無線は使用しません。ケーブルテレビのケーブル網は市内全域に張り巡らされています。保安器があり、中継車が行ける所であれば、どこからでも生中継が可能です。（東条地域は、最新の光ケーブルが架設されているため保安器がなく、市の関連施設と東条湖からの生放送が可能です）ケーブルは、情報を双方向に送ることができます。中継車から情報センターへ、情報センターから各家庭へ同じケーブルを使って映像を送っています。

悪質業者にご注意を

作業着姿の不審な二人組が、「有線放送の者です」と語って家の中に入り、「告知機を交換する」と言って七千八百円を請求する事件が発生しました。地域情報センターでは、本人さまからのご依頼なしに、点検や部品の交換を行うことは一切ありません。不審に思われたときは、すぐに地域情報センターへお問い合わせください。

問い合わせ

地域情報センター
42・8330